

## 活動に至った理由・背景

子育てをしていて、児童館等に足を運んだ際に、そこで遊んでいる子供や大人達を眺めていて何か大事なものが忘れられているのではないか、と思いました。また、同時に、公共の施設に対する不満を感じるようにもなりました。この町には豊かな自然が残っています。その資源を活用してコミュニティの場を作れば、植物を介して人が集い話をすることもできるし、近所の顔と顔が繋がる、そして、多世代の交流が可能になると思いました。

活動の対象とする農園は環境が十分に整えられておらず、農園と道の境界には鉄筋U字鉄線が痛々しく立てられていた。この道はコミュニティバスが通り、農園の前にバス停があります。大通りではないのですが、近くに桜並木があり、日中や夜も散歩やジョギング等に使われており、子供をはじめ多くの人が行きかっています。

この農園を整備することにより、地域の人がこの道を心地良く利用でき、同時に農園を使用する私達も安全になると考えました。また、これをきっかけとして、農園からコミュニティづくりを進めていけると思ったのが活動に至った理由です。

## 活動地域の概要

活動する農園は東京都練馬区西大泉にあり、西に西東京市、北に埼玉県新座市が隣接しています。中心街から離れているので、行政などの施設はどこも遠いのが現状です。

練馬区は農業地域であり、農が練馬のまちの特徴的な資源です。西大泉の農地率は区内トップで、練馬区の平均が5.8%に対し、西大泉は3倍以上の18.4%です。駅から少し行けば体験農園もあり、自然豊かな場所があります。また、西大泉は芝畑が多く、芝栽培が盛んでした。今は買い手もなく、需要が減少、農地が農地として機能していません。農家の高齢化・相続税・後継ぎ問題がとりわけいわれていますが、この地区も都市農業の行方を見据える場所の一つです。

設立年月 2009年3月

メンバー数 20名

代表者名 相原 恵里子（あいはら えりこ）

〒178-0065 東京都練馬区西大泉5-37-13

TEL.0749-28-9853 FAX.03-3922-2820

lalalamama1234@yahoo.co.jp

<http://lalalamama.jimdo.com>

## 団体のミッション

いつもの友を超えて、地域の視点を持ちながら、農園・イベント講座を実施。

子育てが孤立から共育てになるよう、

「わ」が大きくなることを目標に活動するママ主体のボランティアグループです。

農園からつながる  
ラララMaMa「東京都練馬区」



# 農園づくりの歳時記

農園を使用することについては、事前に園主の相原弥平さんの了解を得てはいましたが、新しい試みであること、畑の中に見ず知らずの人が入ることについて、なかなか了解が得られませんでした。

活動実施のために説得する日々が続きましたが、

地域住民参加型(毎月1回)で

「農園ガーデンづくり」ということで了解をとることができ、

活動を本格的にスタートさせました。

作業支援協力・NPO法人サニーサイド(障害児就労支援)

講師・NPO法人自然工房めばえ



3月

## 安全面の配慮 鉄筋撤去

長年立てられていた鉄筋の柵は築30年。それ自体が腐っており、これまで倒れないでいたのが不思議なほどでした。この活動が、鉄筋を撤去するのにとてもいい機会となりました。柵がなくなつたことで、すっきりして開放感が出てきました。

4月～11月

## ガーデンづくり 地域でつながってお花を

毎月テーマに沿って、講習参加者で種まき・花・ハーブを定苗し、管理してきました。ここは三段階に分かれ、手前から段々と背た

けを高くし、前から後へと花が咲くようになつており、道を行きかう人にとって心地よいものとなるよう配慮しました。花が咲けばいろんな歓声が聞こえ、作業を進める仲間達にも励みになります。梅雨が終わろうとする6月下旬にラベンダーが咲き始めました。あたり一面紫色になり、まるで北海道の富良野のようないメージになりました。

7月～10月

キバナコスモスの花と、メキシカンブッシュセージが咲き乱れ、都内にいながら広大な風景になりました。日差しが強くなる頃、小さな黄色とオレンジの花が次々と咲くのです。都内の猛暑にも負けず、力強く凛としていました。そこには、どこから来るのかとても綺麗な蝶が蜜を求めて飛びかっています。風が吹けば、左右に花穂がゆれるセージの風景は、時をゆっくりと感じさせてくれました。

11月～3月

休眠期、次第に春が近づくとチューリップが咲き始めます。白や赤、黄色、ピンク、太陽の光によって花びらが変化しています。そんな花を見て、小さなお子さんが「咲いた～咲いた～」と心地よく歌っている姿に嬉しく思いました。TVや絵本でない、本物の花を見て歌ってくれていること、大人達が奪っている本物体验がここでは出来ることを証明してくれました。





2013/04/04



2011



2012

## 植物も、地域も、育む。



こうみ作業



石臼体験



ホップ植え込み



コスモス花つみ

車イスを押して楽しんでいる家族、カメラをもって写真を撮っている男性、大きなトラック運転手の強面のお兄さんが愛らしく見ていい光景。「この道綺麗になったな、今まで好きじゃなかつたよ」と陽気に話してくれるおじいさん、お散歩がてらの老夫婦やご近所の方もいらっしゃるほか、近くの会社の社員同士の会話の話題にもなっているとのことです。「本当に素敵ね。私達には見ているだけしかできないけど、とても光栄だわ」「生き返った」と様々な反響をいただきました。作業をしていれば「ここにちは」。ご近所のつながりや人情や温かさなどに触れることがない日常の生活の中で、知らない方からお声を頂けることが、少しずつ、農園からコミュニティづくりが始まっていることを物語っています。

## 2013年 5月 休憩場づくり

早めにビニールハウスを設置する予定でしたが、場所が定まりず、棚を立てることにしました。講習会形式で行つたので初対面同士の方も多く、何か作業をすることで会話をしなければならない状況が生まれます。

### 環境整備 ベンチ・棚・ハウス設置

前半はバス停にベンチがないので、農園側につけてほしいという住民の声にベンチを設置

しました。農地だけに規制が厳しく、桜の木を利用した丸太のベンチになりました。

会員さんの息子さんがベンチをつくれるこ

とをお聞きして、ご好意で作業をしてい

だきました。ベンチ1つでいろんな方が来

られられるようになりました。しばらくす

と、自転車で行き過ぎた子供達が戻って

きて、そこに座って楽しんでいる光景が見

られました。子供の好奇心がかきたてられ

るのでしょう。そのほかにも休憩される方

が沢山いらっしゃいます。設置するまでは、

安全面からここに設置することに戸惑いが

ありました。ですが、今は人が座っている光

景も含めて、農園全体の絵になっています。

景観を大事にしながらどこに何を配置

するのか、規制のある場所の中で、なかな

か判断できず時間がかかりました。ハウス

1つ立てることに園主さんの許可がおり

ず、最終的に棚を設置することになりました。

た。農業知識の少ない私達は、いろんな方

の声に振り回され、方向性を見失う時もあ

りました。3月中によく設置可能にな

## 畑の開墾

### 計画になかったことの始まり

農園は、元芝畑であり、芝の面積が広く、綺麗に維持するには草むしりが必要です。この作業を簡便化するために、畑の開墾をすることになりました。機械を使用できない私達は、基本的に手作業になります。スコップで、根の張る芝を切っては掘り上げ、畑の面積を大きくします。真夏にも作業が続きました。

そして、ここでそば栽培が始まりました。

会員さんの一人がそば栽培経験者であり、その指導のもと種からそばが実り、製粉まで、手作業・そば打ちまでを堪能することになりました。そこで講師としてこちらの方と、会員さんの一人が昔ながらの長年の付き合いがあったことがわかつたのです。お客様と店主さんの関係で、40年のつきあいだったそうです。しかし、運営が難しくなり店を閉じてしまい、それなりでした。同じ地域にいながら、会うことはなかったといいます。当時お店でそばの話をしていても電話番号も知らない同士が、そばを通じて久しぶりの再会となりました。そばを通じてまた会うことができたのです。

## そばの栽培

### そばでつながった軌跡

## 「わ」が広がること

上記以外にも、のちになつて様々なつながりがあることを知りました。同じ地域で暮らしていくとも、関わる接点がないと関係性が不透明で見えず、いろんな人とつながっていることに気付きません。多世代のつながりができ、つながりを知ることは防災などにも役立ちます。会員さん同士が互いに街中で会つて気楽に挨拶できることが、地域のつながりをもたらしてくれているように思います。顔がわかつて挨拶できることが、こんなにも嬉しいことだったなんですね。「こんにちは」「元気?」ただこれだけでいいのです。

## 今後の予定

農園の資源を利用して地域の居場所作りを「農園ガーデン」として定め、2013年度は毎月1回ワークショップを行ながら、ふらっと誰もが参加できる内容に変えていきたいと思います。今年の反省点から継続性を考え、参加者の負担のない内容に変更することで、農園の植物を楽しむことが今後の活動に広がりをもたせてくれるようになります。作業ができる方には、就労支援のNPOの皆さんたちに加わって頂き、共同作業の中から、

また「わ」ができればと考えます。

植物は私達の心を豊かにしてくれ、子供や大人にも自然の遊びを楽しませてくれます。今は何でも利便性を求めている生活ですが、「農」には、昔の知恵や生き方。暮らし方・食を通じて、地域に活気を魅せる力があると思います。練馬区を始め、西大泉のこの場所には、この力が必要だと信じています。

農の価値を見出し、新しいモノとして継承させることが目標です。私どものような場が増えることが、地域の活性化につながると考えています。

農の人材を育てる。そして植物とともに、農とまち、それに関わる団体、企業さんと視察や検討を通して、これから地域で出来ることを様々なカタチで研究し、連携していくことが第一歩だと思っています。



2013年の春

### 団体設立の経緯

子育てのための環境は十分ではなく、行政のサービスも決して満足するものではありません。子育ての中で児童館や公園、子供たちに触れ、遊びの環境を取り巻く生活・大人・行政の施設に疑問を抱くようになりました。子供に触れている大人そのものが、社会のグローバル化にさらされている結果であると思います。代表である相原が、母親のためのカナダ生まれの母子学習講座（ノーバディス・パーエクト 対話式問題解決型）に参加したことにより、団体設立の意志が芽生え、その後、参加していた仲間と共に団体を結成しました。地域資源の農が生かされていないことをきっかけに、新しい農園のあり方等を模索していました。自発的に子育ての立場から地域を巻き込んだ問題定義にとりかかっています。